



古墳築造の手がかりを求めて

昼飯大塚古墳連続講座と現地説明会に多くの参加者



針貫入試験を行うと古墳をほとんど傷めずに、土の強度や地山と盛土の境界、使われた土の性質もわかるんです。

十一月二十八日（土）と十二月五日（土）の二週連続してまちづくり工房大垣・歴史観光グループが企画した昼飯大塚古墳連続講座が赤坂総合センターを会場に行われ、昼飯大塚古墳では現地説明会を開いて現在の調査内容を公開しました。

重要文化財の社寺仏閣などの修復はできるだけ同じ材料の木材や工法を用いて行われています。昼飯大塚古墳は国指定史跡であり、その保存整備事業は創建時とより近い土で再現することをめざしています。そのため、盛土の強度や特性を調べるとともに、密度・水分の調査や試験を行ってきました。

現地説明会では、新たに確認された、埴輪列や埴輪棺などの公開に加えて、地盤工学的な調査をご指導いただいている京都大学の三村衛先生から、参加者に直接、現地で調査方法等の説明を聞かせていただくことができました。



埴輪洗い



復元した古代の鋤



新たに確認された埴輪棺



古代米おにぎり



勾玉づくり



斜面の角度がわかる葺石

創建当時に近い工法での古墳づくり体験は、雨天のため勾玉作りと埴輪洗いに内容を変更しましたが、手作りの勾玉の輝きや文様が描かれた埴輪片の発見があり、どの参加者も古墳に土を積みながら心残りはあるものの、楽しく充実した体験をしていただきました。

現地説明会の当日、参加者の皆様からいただきましたご意見とご質問の一部を紹介させていただきます。

私の自宅から中山道をはさんで徒歩二分で大塚古墳。私が六十五年たがやしている畑は前方部のすぐ下。私は毎日畑へゆき、毎日大塚古墳にそって歩いていきます。国指定史跡になってとてもうれしく終生楽しみです。整備完成後、お手伝いできることはぜひやらせていただきたいと思います。せめて、自分の畑を花いっぱいにしてようと努力中です。

青墓校区 七十代 女性

古墳の胎土部分がすすけたような黒土になっているのは、発掘による酸化が進んだことによるのでしょうか。

大垣市内 六十代 男性

昼飯大塚古墳の地山や茶色の土と交互に洋葉子のミルフィーユのように積み上げられている黒い土は黒土（くろぼく・くろぼこ）とよばれる土で、発掘によって酸化が進んだためではありません。広辞苑には、「黒ぼく 火山灰や軽石を母材とする土壌。風化が進んだものは黒色・酸性の腐植となる。」と書かれています。昼飯の台地の地面の下には火山灰が積み重なった黒色の地層が広がっているのです。